

Salt Intake, Home Blood Pressure, and Perinatal Outcome in Pregnant Women

井上, 美奈子

<https://doi.org/10.15017/1806879>

出版情報：九州大学, 2016, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

(別紙様式 2)

氏 名	井上 美奈子
論 文 名	Salt Intake, Home Blood Pressure, and Perinatal Outcome in Pregnant Women
論文調査委員	主 査 九州大学 教授 筒井 裕之 副 査 九州大学 教授 加藤 聖子 副 査 九州大学 教授 鴨打 正浩

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

一般成人の血圧管理において減塩の有用性は確立しているが、妊婦における食塩摂取量と妊娠高血圧症候群 (PIH) 発症の関連は明らかでない。そこで本研究では、妊娠中の食塩摂取量の実態を評価し、PIH 発症の予測因子を検討した。九州医療センターを婦健診目的に受診した妊婦 184 名を対象とし、妊娠経過中の尿中食塩排泄量、妊娠 20 週以前と 30 週以降それぞれ 7 日間の家庭血圧、PIH 発症の有無を調査した。妊娠 20 週以前に早朝尿を用いて推定した尿中食塩排泄量は $8.6 \pm 1.7 \text{ g/日}$ で、24 時間蓄尿で測定した尿中食塩排泄量と有意に相関した。尿中食塩排泄量は、妊娠経過中わずかながら有意に増加した。妊娠 20 週以前の家庭血圧は $102 \pm 10/63 \pm 8 \text{ mmHg}$ 、30 週以降 $104 \pm 12/64 \pm 10 \text{ mmHg}$ と有意に上昇した。家庭血圧を目的変数とした多変量回帰分析では、血清尿酸値と体格指数が独立した規定要因として検出され、尿中食塩排泄量と有意な関連は認めなかった。14 名 (7.6%) が PIH を発症した。PIH 発症に対するロジスティック回帰分析では、妊娠 30 週までの尿中食塩排泄量平均値、変化量いずれも PIH 発症と有意な関連は認めなかった。多変量解析の結果、家庭血圧と年齢が PIH 発症と有意に関連していた。対象妊婦における尿中食塩排泄量は約 9 g/日 で、尿中食塩排泄量は PIH 発症と有意な関連はなかった。PIH 発症に対し、妊娠 20 週以前の家庭血圧と年齢が有意な予測因子として検出された。

以上の成績はこの方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったがいずれについても適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と判定した。